

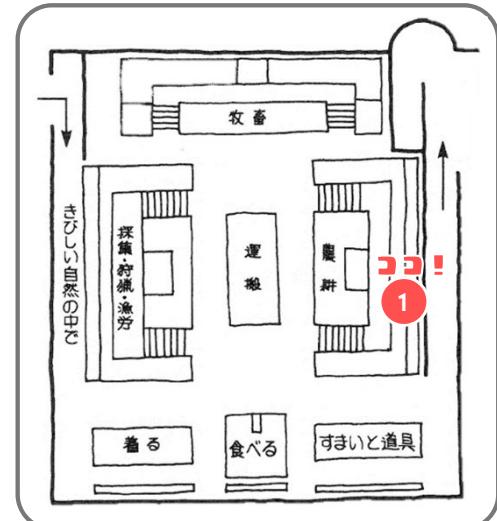
本館第2室 技術 Technique 編

まだまだ残暑が続く毎日。暑さにちょっと疲れたら、冷房の効いた本館展示室でクールダウンしてください。今回は第2室のなかで、学芸員オススメの展示資料をコメントとともにご紹介します♪

1 ニワトリかご (タイ)

タイの農耕民、リス人、ラフ人、メオ人のもの。形はそれぞれだが、どれもタケを編んで作っている。市場でニワトリを売り買ひするときに運ぶために使う。

ニワトリが入るんですか？
ハイ！入るんです！
ちょっとせまそうですが、
意外と入るんです。コケッコー！



2 舟 (ケニア)

東アフリカの国、ケニアのバリンゴ湖で、マサイ系民族の漁民が交通や漁に使う舟。こぎ手は中央に座り両手にカイをもってこぐ。

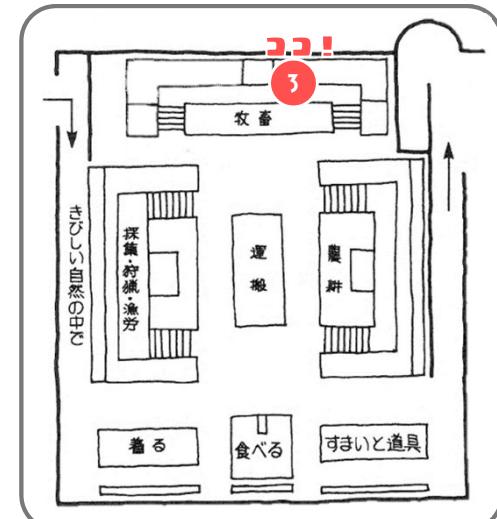
“アンバッチ”という熱帯アフリカの沼地、湖、川に生育するマメ科の木を束に組んで作られている。

水深が浅い湖沼で活躍する舟です。舟の形や底をよく観察してみてください。広いアフリカでもこのタイプの舟を使うところはあまり多くありません。エジプトのナイル川では、アシ科の植物パピルスを使った同タイプのカヌーがあります。

3 乳しぶりのイス (スイス)

乳しぶり作業をするときに座るイス。イス脚の先が丸くて自立しないのは、乳しぶり作業の時は両手が必要であり、搾乳者が牛から牛へと移動するため。

酪農がさかんなスイスならではの道具。名作アニメ「アルプスの少女ハイジ」のアルムおんじも使っていました…かも！（誰か確かめてみてください！）



世界の9月

はどんな月？

9月。昨今の日本では、まだまだ夏の最中、残暑厳しい時期に感じられます。空を見上げると、雲の形が少しあつ秋のそれへと移り変わっていく、そんな時期にあたります。

けれども、世界に目を向けてみると、「9月」という同じ名前のもとに、まったく異なる季節や文化が息づいています。世界の9月は、必ずしも“秋”とは限らないのです。

南半球では「春のはじまり」

9月。昨今の日本では、まだまだ夏の最中、残暑厳しい時期に感じられます。空を見上げると、雲の形が少しあつ秋のそれへと移り変わっていく、そんな時期にあたります。

けれども、世界に目を向けてみると、「9月」という同じ名前のもとに、まったく異なる季節や文化が息づいています。世界の9月は、必ずしも“秋”とは限らないのです。

南半球では「春のはじまり」

たとえば、オーストラリアや、南アフリカなどといった南半球の国々では、9月は春の入り口です。冬の終わりを迎え、野に花が咲き始め、気温が上がるとともに、人々は户外での活動を楽しむようになります。

日本では「読書の秋」を迎える頃、南半球では「ピクニックの春」が始まるのです。同じ「9月」でありながら、そこにある風景も、感じ方もまったく異なります。

私たちにとって当たり前の「9月=秋のはじまり」という感覚は、実は地域や気候帶によつて異なるものだとこうじて改めて気づかれます。

暦と信仰に見ゆる9月の姿

「9月」別の角度で見てみましょう。世界には日本で主に使う太陽暦とは異なる暦で日々を刻む文化も多く存在します。

ユダヤ暦では、「9月」は新年にあたる「ロシハハシヤナ」が行われます(今年は9/23～24)。これで毎日を省みる時間でもあり、家族や地域で祈つとともに新しい年を迎える大切な行事です。

また、中国や韓国など東アジアでは、旧暦に基づく「中秋節」が9月にあたる」とが多くあります(今年は10/6ですが…). 月を眺めながら月餅や季節の食べ物を囲み、家族や先祖とのつながりを感じる」の行事は、日本のお月見とも共通する部分があります。

「9月」に見ゆる、暦や宗教的背景が異なれば、9月の意味や過ごし方も大きく変わることがわかります。暦とは、単なる日付の数え方ではなく、その土地の歴史や価値観を映す「文化の鏡」とも言えるのかもしれません。



新年度が始まる9月も

一方、アメリカやカナダ、ドイツなど多くの国では、9月が新学年のスタートです。新しい教科書、新しいクラス、新しい友人の出会い。9月は「あつたく新しい生活が始まる9月」といって、多くの希望と緊張感に包まれます。

同じ「9月」でも、「終わつ」として迎えるのか、「始まり」として迎えるのか。その感じ方の違いには、文化や制度以上に、時間そのものの捉え方の違いが表れてくるよう」感じます。

暦の「回り」にある、世界の「くり」

同じ「9月」と「9月」の間に、春の風を感じる人もいれば、新しい年を迎える人もいます。信仰に心を傾ける人もいれば、月を眺めて家族と静かに過ごす人もいるのです。

私たちはカレンダーの数字を見ながら日々を過ごしていますが、その数字の「9月」には、それぞれの文化や歴史に裏打ちされた時間の流れが広がっています。

今日、私たちが迎える9月には、どんな空気が流れているのでしょうか。そして、その同じ瞬間に、地球の裏側ではどのような季節が始まっているのでしょうか。

そんな想像をめぐらせてみると、何気なく過ごす一日も、少し違つた風景に見えてくるかもしれません。

9月。まだまだ夏の最中、残暑厳しい時期に感じられます。空を見上げると、雲の形が少しあつ秋のそれへと移り変わっていく、そんな時期にあたります。

日本では新年度は4月に始まり、9月はちょうど中間点にあたります。夏休みが終わり、少し気持ちを引き締めて学校や仕事に戻る「コスターの月」といふことがあります。